2026 年 10 月更新



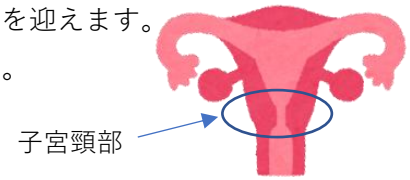
子宮頸がんと HPV ワクチン



子宮頸がんは、ワクチンで予防できるがんです。
予防接種を受けるとともに、定期的に子宮がん検診を受診し、早期発見・早期治療に努めましょう。

子宮頸がんとは

女性の子宮頸部にできるがんのことです。子宮は、胎児を育てる器官で、子宮頸部は、その入り口部分のことを言います。患者は、20 歳代から上昇し 40 歳代でピークを迎えます。
早期に発見、治療により比較的治癒しやすいがんとされています。



原因

子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス（HPV）がかかわっています。HPV は性行為で感染し、数年～数十年かけて子宮頸がんを発症させます。また、HPV は男女問わず感染する可能性があるウイルスです。HPV が原因で発症するがんは子宮頸がん、中咽頭がん、陰茎がん、肛門がんなどがあります。

予防方法



① HPV ワクチン接種

小学校 6 年～高校 1 年相当の女子は、公費により HPV ワクチン（9 価ワクチン「シルガード® 9 」）を接種することができます。ワクチンは、一定の間隔をあけて、合計 2 回または 3 回接種します。接種する年齢によって、接種のタイミングや回数が異なりますが、接種を完了するまで約 6 か月かかります。

② 子宮頸がん検診の定期的な受診

20 歳以上の女性は、2 年に 1 回、子宮頸がん検診を受けることが推奨されています。一般的に、子宮頸部の細胞を採取して、異常がないか検査する「子宮頸部細胞診」を行います。検診を受けられる場所や費用など、詳細についてはお住まいの市区町村にお問い合わせください。



公益社団法人 日本産科婦人科学会 HP　子宮頸がん
https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=10
厚生労働省 HP
ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～｜厚生労働省

國學院大學保健室